

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p2)

《1. 狭円柱樹形のポプラ》

各文献での学名は、*P. nigra* var. *italica*、*P. nigra*、*P. × canadensis*、の三形がみられる。

1-1. *italica* 採用文献一覧(変種・栽培品種としている)

- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Koehne イタリアヤマナラシ<杉本1978>
- ◇*P. nigra* L. cv. 'Italica' セイヨウハコヤナギ<北村四郎1979>
- ◇*P. nigra* var. *italica* セイヨウハコヤナギ<小林1980>
- ◇*P. nigra* L. *italica* Moench. セイヨウハコヤナギ(ポプラ、ピラミッドヤマナラシ)<松崎・他1983>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench (*P. italica* (Muenchh.) Moench) セイヨウハコヤナギ(ピラミッドヤマナラシ)<大井1983>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench. (*P. pyramidalis* Borkh.) セイヨウハコヤナギ・カロリナポプラ(ポプラ、ピラミッドヤマナラシ)<松崎・他1983>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Koehne イタリアヤマナラシ(セイヨウハコヤナギ)<林1985>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench セイヨウハコヤナギ<木村1989>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench. (*P. nigra* L. 'Italica') セイヨウハコヤナギ(イタリアポプラ、ポプラ)<北村四郎・斎藤1989>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench. セイヨウハコヤナギ(ポプラ)<沼田1990>
- ◇*P. nigra* var. *italica* イタリアヤマナラシ<吉山・他1992>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench (*P. pyramidalis* Borkh. ; *P. italica* Moench) ポプラ(セイヨウハコヤナギ、他多数あり)<上原1995>
- ◇*P. nigra* L. cv. 'Italica' セイヨウハコヤナギ(ポプラ)<湯浅1995>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Du Roi ポプラ(セイヨウハコヤナギ)<家永・他1996>
- ◇*P. nigra* var. *italica* セイヨウハコヤナギ(イタリアヤマナラシ、ポプラ)<北村文雄・他2001>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench イタリアポプラ(セイヨウハコヤナギ)<斎藤2001>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench. イタリアヤマナラシ(イタリアポプラ、ポプラ)<長谷川2001, 2003>
- ◇*P. nigra* var. *italica* イタリアポプラ<横井2003>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* (Duroi) Koehne セイヨウハコヤナギ(イタリアヤマナラシ)<邑田2004>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* (Duroi) Koehne セイヨウハコヤナギ(ポプラ)<牧野2008>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* セイヨウハコヤナギ(ポプラ、イタリアポプラ、イタリアヤマナラシ、ピラミッドヤマナラシ、ニグラポプラ)<矢口2009>
- ◇(学名なし*) セイヨウハコヤナギ(イタリアポプラ、ポプラ)<佐藤2011>
- ◇*P. nigra* L. var. *italica* (Duroi) Koehne (*P. nigra* L. 'Italica') セイヨウハコヤナギ(ポプラ、イタリアヤマナラシ、ピラミッドヤマナラシ)<YList2012>

1-2. *P. nigra* 採用文献一覧(基本種としている)

- ◇*P. nigra* ヨーロッパクロポプラ<森田1973>
- ◇*P. nigra* L. アメリカヤマナラシ(クロヤマナラシ)<北村文雄・他1982>
- ◇*P. nigra* クロヤマナラシ<トニー・他2005>
- ◇(学名なし*) ヨーロッパクロポプラ(クロポプラ)<生原2005>

1-3. *P. × canadensis* 採用文献一覧(雑種としている)

- ◇*P. × canadensis* ポプラ(セイヨウハコヤナギ)<大橋1997>
- ◇*P. × canadensis* Moench. (*P. nigra* L. var. *italica* Duroi を改める*) セイヨウハコヤナギ(ポプラ)<長谷川1999>
- ◇*P. × canadensis* (*P. nigra* var. *italica*) ポプラ(ロンバルジーポプラ、イタリアヤマナラシ)<野田坂2011>

1-4. *canadensis* と *italica* の関係

従来は、狭円柱樹形のポプラは *P. nigra* の変種や品種とされる考えが一般的であったが、近年雑種起源であるとの説が以下文献などにみられる。

・大橋(1997)によると、「以前は起源がはっきりせず、学名もヨーロッパクロヤマナラシ(*P. nigra* *)の変種や栽培品種とされていたが、現在はポプルス・カナディアンズを使い、国際植物命名規約によって種小名の前に雑種である×印をつける」と記している。

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p3)

・長谷川(1999)によると、「ポプラの学名を *P. nigra* var. *italica* を用いたが、ポプラは近頃では雑種起源のものと考えられ学名は *P. × canadensis* Moench. Verz. Ausl. Baume Weissent. 81 (1785) が多用されるので訂正しておきたい。この種は *P. deltoides* (♂) × *P. nigra* (♀) 或いは *P. angulata* (♂) × *P. nigra* (♀) と考えられている」と記している。

・野田坂(2011)によると、「イタリアポプラの変種とする説が長く信じられてきたが、最近の研究ではヨーロッパクロヤマナラシ(*P. nigra*)とナミキドロ(*P. deltoides*)との雑種である、ということになり、*P. × canadensis* と変わった」と記されている。

一方、森田(1973)によると、「ヨーロッパクロポプラ(*P. nigra* *)とアメリカクロポプラ(*P. deltoides* *)の雑種のことを、A. Rehder が *P. canadensis* と命名したが、1950年の国際ポプラ委員会において、ユーラメリカポプラ(*P. euramericana*)と呼ぶように統一された。日本ではこれらの雑種ポプラを総称して改良ポプラと呼んでいる」と記されている。実際に *P. × canadensis* を、改良ポプラの学名とする文献が多い。

1-5. 狭円柱樹形のポプラの由来

・上原(1959)によると、「原産地は不明だとされているが欧州説と、クリミヤ、ヒマラヤ地方だとする説とある。(中略)一説に西方アジアから北イタリアのポー河堤防に移植されその中に交った雄株品種一株がこの変種であってそれから増殖されたと伝える。しかしその年代や事実についての証明は無く(中略)日本に渡来したのは明治10年以前であるといわれる。(中略)この樹はアメリカヤマナラシ(*P. nigra*)の変種ではないということをモッス(Moss)は主張している、その根拠は基本種と樹形、芽、葉、開花期等の異なる点を挙げている。しかしそれは雄雌の区別と混同しているのかも知れないといわれる。この変種が栽培品より出たか、自生品の中で見出されたか不明だがとにかく雄株である。この雌株についての報告もあるがこの方は円柱形樹形ではなく、稀品ではあるが形を異にする」と記されている。

・松崎・他(1983)によると、*P. nigra* var. *italica* (狭円柱樹形のポプラ *) 明治中年渡来、と記されている。

・湯浅(1995)によると、「北大のポプラ並木(セイヨウハコヤナギ *P. nigra* L. cv. 'Italica')は1903年(明治36年)に植えられたものという」と記されている。

1-6. 狭円柱樹形のポプラの考察

a. *P. nigra* (基本種説) 採用の検証

北村・他(1982)によると、狭円柱樹形のポプラに *P. nigra* を当てているが、写真と説明が *P. nigra* var. *italica* と逆になっており、北村文雄・他(2001)では出版社や記述陣は異なるが、*P. nigra* var. *italica* を狭円柱樹形のポプラとしていて、どちらかが違っているのかも知れない。

生原(2005)によると、狭円柱樹形である北大のポプラ並木のポプラをヨーロッパクロポプラとし、新宿御苑に生育しているポプラを変種のイタリアポプラ(セイヨウヤマナラシ)として、北大のものとは区別して記されている。しかしその説明は「イタリアポプラの幹は通直で、枝は上向き」としており、これは北大のポプラの性質と同じと思える。筆者は新宿御苑のポプラが狭円柱樹形であることを確認している(頁1の図)。また、森田(1973)やトニー・他(2005)では、*P. nigra* の変種の記述がなく、変種を認識していない。

以上のことをふまえて考察すると、狭円柱樹形のポプラを基本種 *P. nigra* とすることはできない。

b. *P. × canadensis* (雑種説) 採用の検証

狭円柱樹形のポプラが雑種起源であるとの報告を採用しているのは、いずれも信頼のおける文献である。しかし、種小名に *canadensis* を用いた学名はすでに多くの文献で改良ポプラに対して用いられており、横張りの枝を持つタイプが多い改良ポプラと狭円柱樹形のポプラとが区別されないことで問題が残ると思う。

c. *italica* (変種・栽培品種説) 採用の検証

雑種起源説を肯定すると、狭円柱樹形のポプラに *P. nigra* cv. 'Italica' の学名は適切ではなく、変種から雑種に認識が変わったことを注目すると、*P. nigra* var. *italica* を従来通り用いることもすこし釈然としない。

以上のように既知の学名はいずれも多少問題があるように思えるが、種小名に *canadensis* を用いることが世界的にはすう勢となっていくようである。しかし横張りの枝を持つタイプが多い改良ポプラ(*P. × canadensis*)とは導入時期もおおよそ50年あまりも異なるうえ、樹形や枝ぶり葉質なども比較的安定していることから、わが国では両者を区別しておくことが必要だと考え、狭円柱樹形のポプラの学名は自然交雑種であることをふまえて便宜的に *P. × italica* (裸名)としておくのも一方法と考える。

◇学名：*P. × italica* nom. nud. (裸名) ◇和名：セイヨウハコヤナギ(イタリアヤマナラシ) (筆者使用)

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p4)

《2. 改良ポプラ》

改良ポプラの学名は *P. × canadensis* または *P. euroamericana* が用いられるが、*P. × canadensis* を狭円柱樹形のポプラに用いる文献がみられる。(1-3. 参照)

2-1. *canadensis* を狭円柱樹形のポプラに当てる文献一覧 (1-3. 掲載と同)

- ◇*P. × canadensis* ポプラ(セイヨウハコヤナギ)〈大橋1997〉
- ◇*P. × canadensis* Moench. (*P. nigra* L. var. *italica* Duroiを改める *) セイヨウハコヤナギ(ポプラ)〈長谷川1999〉
- ◇*P. × canadensis* (*P. nigra* var. *italica*) ポプラ(ロンバルジーポプラ、イタリアヤマナラシ)〈野田坂2011〉

2-2. *canadensis* を改良ポプラに当てる文献一覧

- ◇*P. canadensis* A. Rehder (*P. euramericana*) 改良ポプラ(ユーラメリカポプラ)〈森田1973〉
- ◇*P. canadensis* Muench (*P. canadensis* Ait.) (和名なし *)〈松崎・他1983〉
- ◇*P. × canadensis* Moench. (*P. × euroamericana* Guinier) ポプラ(セイヨウハコヤナギ、改良ポプラ)〈長谷川2001, 2003〉
- ◇*P. × canadensis* (和名なし *)〈塚本2001〉
- ◇*P. × canadensis* カロリナポプラ(カイリョウポプラ)〈横井2003〉
- ◇*P. × canadensis* カロライナポプラ〈トニー・他2005〉
- ◇*P. × canadensis* ポプラ(セイヨウハコヤナギ)〈コリン・他2007〉
- ◇*P. × canadensis* (*P. × euroamericana*) カイリョウポプラ(カロリナポプラ)〈大場2009〉
- ◇*P. × canadensis* Moench カナダポプラ〈YList2012〉

2-3. *euroamericana* を改良ポプラに当てる文献一覧

- ◇*P. euroamericana* イタリア改良系ポプラ品種〈山崎1956〉
- ◇*P. × euroamericana* Guinier (*P. canadensis* Moench) エウロアメリカナ(改良ポプラ)〈北村四郎・斎藤1989〉
- ◇*P. euroamericana* Rehd 改良ポプラ(ユウロアメリカナポプラ)〈斎藤2001〉
- ◇*P. euroamericana* 改良ポプラ〈矢口2009〉
- ◇*P. × euroamericana* Rehd. エウロアメリカポプラ(改良ポプラ)〈佐藤2011〉

2-4. *euroamericana* と *canadensis* の関係

これについては次のような記述がある。(1-4. 掲載と同)

・森田(1973)によると、「ヨーロッパの *P. nigra*(*)とアメリカの *P. deltoides*(*)の雑種のことを、A. Rehderが *P. canadensis* と命名したが、1950年の国際ポプラ委員会において、ユーラメリカポプラ(*P. euramericana* *)と呼ぶように統一された。日本ではこれらの雑種ポプラを総称して改良ポプラと呼んでいる」とある。

2-5. 改良ポプラの由来

a. 発生

・森田(1973)によると、「ヨーロッパの *P. nigra*(*)とアメリカの *P. deltoides*(*)の雑種が、いわゆるイタリー系や改良ポプラといわれるものである。この改良ポプラといわれる雑種ポプラは、アメリカの *P. deltoides*(*)が18世紀の始めにフランスに導入されて、在来のヨーロッパの *P. nigra*(*)との間に天然雑種ができて(中略)発見されている」と記されている。

・朝日(1968)によると、「改良ポプラ(*)は北米に自生していた *P. deltoides*(*)が欧州に渡り、欧州の *P. nigra*(*)と天然に交雑してできた雑種に更に手が加えられて生まれた(中略)欧州とアメリカの両方の名をとってユーラアメリカナ(*euroamericana* *)という名で統一されている」と記されている。

・山崎(1956)によると、「イタリア改良系ポプラ(中略)この改良品種は(中略) *P. euroamericana* と呼ぶ。「ヨーロッパとアメリカ原産の品種のかけ合わせから生まれたもので、(中略)欧州の *P. nigra*(*)系統と北米の *P. deltoides*(*)系統との種間交配雑種をつくり、それらの中から(中略)選抜してつくり上げたものである。「我々がポプラというただちに連想するあのホウキを逆立ちさせたような形とはおよそ縁遠い」と記されている。

b. 世界での推移

・朝日(1968)によると、「イタリアポプラ(改良ポプラ *)は第二次世界大戦中(中略)木材不足に悩んだイタリアが(中略)150万本ものポプラを交配した結果、よりすぐられたものが I154号(ムッソリーニポプラ *)である。(中略)更に研究が進み、I214号、別名イタリアの栄光ができて、日本にも輸入された(昭和27年

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p5)

1952年 *)」と記されている。

・濱谷(2007)によると、「第二次世界大戦中の木材不足からイタリアでは *P. nigra* L.ヨーロッパのポプラ、その変種で樹形が箒状となる *P. nigra* L. var. *italica* Koehne やアメリカの *P. deltoides* Marsh.などを使った交雑が行われ、多数の早生の品種すなわちイタリアポプラ(改良ポプラ *)が作り出された。更に戦後、より多くの種を用いた育種が世界各国で大々的に進められ、多くのいわゆる改良ポプラの品種が作られた」と記されている。

c. 日本での推移

・森田(1973)によると、「林業的に生産を目的としてポプラの試験研究がはじめられたのは、昭和14年頃に国立林業試験場でポプラの育種に関する研究として、現在の中国から多数の材料が導入されてからといわれる」。「東京大学三好東一名誉教授が、西ドイツの林業労働科学研究所のヒルフ教授から1952年に始めて改良ポプラを導入したのに端を発し、東京大学猪熊教授がイタリーのカザーレモンフェラートにあるポプラ研究所から、いわゆるイタリー改良系のクローンを、1954年から1956年にわたり導入した」と記されている。

・グリーン(1961)によると、「昭和29(1954)年(中略)東大猪熊教授はイタリアのポプラ研究所から、(中略) I 154、214、455の三系を導入した。(中略)我が国のポプラの歴史は在来三種のほか外来数種があったがこれらは改良系のはんちゅうには入らない。改良系の導入は昭和27年に(中略)ドイツ系品種19種、28年にアメリカからOP系十品種の導入があったが、今日のポプラブームのきっかけとなったのはこのイタリア系が最初であった」。「昭和31年にイタリアから直輸入した三品種をもとにして増殖(中略)5年目の35年には保有量が63万本(中略)、成苗として山出ししたものは25万本を数えた」。「養苗着手の当初には巨大種、カマブチ種、カロリナ種など従来の改良系ポプラも相当数あったが、イタリア系の実用品種が増加するにつれてこれらの在来種(従来までの外来種 *)はおいおい少なくして行った」などと記されている。

・松崎・他(1983)によると、*P. angulata* (カロリナ種 *)明治初年渡来、*P. deltoides* (ナミキドロ *)明治末年渡来、*P. nigra* var. *italica* (狭円柱樹形 *)明治中年渡来、と記されている。

d. 改良ポプラの現状

・生原(2005)によると、「イタリア系を中心にヨーロッパ諸国から100余種の改良ポプラを導入し、日本に適する候補種19種系統を選定した。北海道から本州まで植栽されたが、低温害、病虫害さらに台風の被害などもあり、期待された成果はえられなかった」と記されている。

・森田(1973)によると、「今までわが国に導入された品種の数は100種以上も数えられるが、北海道の各地における10数年間の適応試験や研究の結果から、現段階で推奨できるものとして、5種類があげられている」と記され、表には(*carolinensis* × *nigra* ♀) (*deltoides* × *nigra* ♂) (*angulata* × *nigra* ♂)などがみられる。

・塚本(2001)によると、栽培品種として、'Eugenei'、'Robusta'、'Serotinade Selys' などあげている。

・横井(2003)によると、改良ポプラの栽培品種として、'Aurea'('オウレア')、'Robusta'('ロブスタ')、'Serotina'('セロティナ')、'Serotina Aurea'('セロティナ オウレア')、などをあげている。

・トニー・他(2005)によると、改良ポプラの栽培品種として、'アウレア'、'エウゲネイ'、'ロブスタ'、'セロティナ'、などをあげている。

2-6. 改良ポプラの考察

狭円柱樹形のポプラは樹形ではほぼ同定が出来ることや、枝ぶりや葉の形質も安定しており、「1-6. b」でも述べたように、狭円柱樹形のポプラと横張りの枝を持つタイプが多い改良ポプラとを同じ学名のもとに区別しないことは適切ではないと考える。そのうえで改良ポプラの学名は、*P. × canadensis* または *P. × euroamericana* のいずれかに集約される。「2-4」で記した森田(1973)にある、「euroamericana と呼ぶように国際ポプラ委員会で統一された」というのは、分類学の方ではあまり反映されていないようで、euroamericana はどちらかというと林業・園芸関係で用いられることが多いのかも知れない。

なお改良ポプラの形質は成り立ちからみても安定しているとは考えられず、田無(2008)によると、*P. nigra* と *P. deltoides* との雑種に手が加えられた *P. euroamericana* を中心として、*P. alba*、*P. sieboldii*、*P. deltoides* var. *virginiana*、*P. trichocarpa*、*P. maximowiczii*、*P. nigra* var. *caudina*、*P. koreana*、*P. petrica*、*P. regenerata*、などの複雑な掛けあわせがみられ、導入系統もイタリア系、ハンブルグ系、南独系、米国系、英国系、シュツットガルト系、その他多岐にわたっての経路から導入されている。改良ポプラと一括りにしてみてもその形質は大変複雑であり、その同定作業はおそらく不可能に近いといえよう。

多数の園芸品があるため総称としての学名は以下のようにし、各園芸品は *P. × canadensis* '園芸名' とするのが良いと思う。

◇学名：*P. × canadensis* Moench ◇和名：カイリョウポプラ(筆者使用)

【ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する】 (p6)

《3. カロリナ種》

カロリナ種の学名は *P. angulata* か *P. carolinensis* とする文献が多いが、種小名に *canadensis* を用いて、カロリナ種を改良ポプラに含む見解と思われるものがみられる。

3-1. *P. angulata* 採用文献一覧

- ◇*P. angulata* Aiton カロリナポプラ<久内1957>
- ◇*P. angulata* Aiton カロライナポプラ<杉本1978>
- ◇*P. angulata* Aiton カロリナハコヤナギ<北村文雄・他1982>
- ◇*P. angulata* Ait. カロリナポプラ(カロリナハコヤナギ)<家永・他1996>
- ◇*P. angulata* カロリナポプラ<矢口2009>
- ◇*P. angulata* カロリナポプラ<野田坂2011>
- ◇*P. angulata* Aiton カロリナハコヤナギ(カロリナポプラ)<YList2012>

3-2. *P. angulata* (別名 *P. carolinensis*) 採用文献一覧

- ◇*P. angulata* Aiton (*P. carolinensis* Moench.) (和名なし *)<松崎・他1983>
- ◇*P. angulata* Aiton (*P. carolinensis* Foug.) カロライナポプラ<長谷川1988, 1996, 2001, 2003>

3-3. *P. carolinensis* 採用文献一覧

- ◇*P. carolinensis* Moench (*P. angulata* Ait.) カロライナハコヤナギ<上原1959>
- ◇*P. carolinensis* Moench カロリナポプラ<沼田1990>

3-4. *P. × canadensis* 採用文献一覧(カロリナ種を改良ポプラに含む)

- ◇*P. × canadensis* カロリナポプラ(カイリョウポプラ)<横井2003>
- ◇*P. × canadensis* カロライナポプラ<トニー・他2005>
- ◇*P. × canadensis* (*P. × euroamericana*) カイリョウポプラ(カロリナポプラ)<大場2009>

3-5. その他を採用する文献

- ◇*P. nigra* L. var. *italica* Moench. カロリナポプラ<松崎・他1983>

3-6. カロリナ種の由来

a. 発生

- ・野田坂(2011)によると、「*P. deltoides* と *P. nigra* L.との雑種から選抜されたもので18世紀中ごろフランスで生まれたといわれている」と記されている。
- ・小林(1980)によると、「アメリカの *P. deltoides* (*) はヨーロッパに渡り、*P. nigra* (*)との間に多数の天然雑種ができています。これらをカナダポプラまたはカロリナ種と総称している。近年イタリアでこれらから改良したイタリア改良ポプラとよばれるものは成長がひじょうに速く、日本でも広められてきた」と記されている。
- ・グリーン(1961)によると、「(改良ポプラの *) 養苗着手の当初には巨大種、カマブチ種、カロリナ種など 在来の改良ポプラも相当数あったが、イタリア系の実用品種が増加するにつれてこれらの在来種(従来までの外来種 *) はおいおい少なくなっていく」と記されている。

b. 日本での推移

- ・松崎・他(1983)によると、*P. angulata* (カロリナ種 *) 明治初年渡来、*P. deltoides* (ナミキドロ *) 明治末年渡来、*P. nigra* var. *italica* (狭円柱樹形 *) 明治中年渡来、と記されている。(2-5. c掲載と同)
- ・上原(1959)によると、「*P. nigra* 明治初年に渡来。*P. carolinensis* 明治初年に渡来す(中略) 並木として関西地方至るところにあり」と記されている。
- ・久内(1957)によると、「朝日新聞社が発刊した、並木道という道路樹のことを書いた本に『都公園緑地部では(中略) 風に強いカロリナ・ポプラを大阪から取寄せ(中略) カロリナポプラはパイ煙にも強く、東京の並木のニューフェイスとして、その登場が期待されている至々』と書いてあった」と記されている。
- ・生原(2005)によると、「東京の街路樹として植えられているのは、樹高が低くて暑さにも強いカロリナポプラで、つやのあるひし形の葉をもち、よく風に揺らぐ」と記されている。

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p7)

c. カロリナ種の現状

・北村・他(1982)によると、「(*P. nigra* var. *italica* *) 林業用に多くの品種がつくられているが、都市樹木向きの品種は特になし。類縁種で緑化に使われているものを次に示す。カロリナハコヤナギ(*P. angulata* Aiton) (以下略)」と記されている。

・横井(2003)によると、カロリナポプラ(カイリョウポプラ)には、栽培品種 'Aurea' ('オウレア'), 'Robusta' ('ロブスタ'), 'Serotina' ('セロティナ'), 'Serotina Aurea' ('セロティナ オウレア'), などがあると述べている(2-5. d. 掲載と同)。

・トニー・他(2005)によると、カロライナポプラは交雑種幾つかの総称で、'アウレア'、'エウゲネイ'、'ロブスタ'、'セロティナ'、などがあると述べている(2-5. d. 掲載と同)。

3-7. カロリナ種の考察

「3-4」に記したように、カロリナ種を改良ポプラの中にも含める考えがあるが、「2-5. 改良ポプラの由来」や「3-6. カロリナ種の由来」で示した文献記述によると、改良ポプラもカロリナ種も共にアメリカの *P. deltoides* とヨーロッパの *P. nigra* との雑種由来であるとしており、カロリナ種が多数の栽培品種群であるとすれば、改良ポプラと同じグループとしてまとめることは一つの考え方ではある。

しかし、第二次世界大戦中の木材不足から作り出されたイタリアポプラは、戦後になると改良ポプラブームが世界各国で起きて、本格的に日本に改良ポプラが渡来したのは昭和29(1954)年頃とされている。

一方カロリナ種はすでに明治の初めごろには渡来していたものと考えられ、同じ昭和29年頃には関西地方では広く街路樹として用いられていたとされている。クローンによる増殖であったとすれば、種としての特徴は比較的安定した形態であることが考えられる。

カロリナ種は18世紀中ごろにフランスで生まれて発見された自然交雑種とされ、これに更に人為的に手を加えて生まれたものが改良ポプラであるならば、同じ両親由来の交雑種であったとしても、カロリナ種と改良ポプラが同じ学名で扱われることは疑問である。発生もおよそ一世紀もの開きがあることから、イタリア系改良ポプラ研究以後に生まれた改良ポプラと、カロリナ種とは、明確に区別しておくことが必要だと考える。

◇学名 : *P. × angulata* nom. nud. (裸名) ◇和名 : カロリナポプラ (筆者使用)

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p8)

《4. その他の外来ポプラ》

和名は多少の混乱がみられる。アメリカヤマナラシなどは各所に出現する。

4-1. *P. deltoides* 掲載文献一覧

- ◇*P. deltoides* Marsh. ヒロハハコヤナギ<上原1959>
- ◇*P. deltoides* アメリカクロポプラ<森田1973>
- ◇*P. deltoides* Marsh. ヒロハハコヤナギ(アメリカヤマナラシ)<杉本1978>
- ◇*P. deltoides* Marsh. ナミキドロ<北村四郎1979>
- ◇*P. deltoides* Marsh. アメリカクロヤマナラシ(ヒロハハコヤナギ)<小林1980>
- ◇*P. deltoides* Marsh. ヒロハハコヤナギ<北村文雄・他1982>
- ◇*P. deltoides* Marsh. (*P. balsamifera* L. ; *P. monilifera* Ait.) ヒロハハコヤナギ<松崎・他1983>
- ◇*P. deltoides* Marsh. (*P. virginiana* Foug.) ナミキドロ(ヒロハハコヤナギ)<長谷川1988>
- ◇*P. deltoides* Bartr. ex Marsh. ナミキドロ(アメリカクロポプラ)<北村四郎・齋藤1989>
- ◇*P. deltoides* Marsh. ナミキドロ<長谷川1991>
- ◇*P. deltoides* Marshall (*P. virginiana* Fougroux) ナミキドロ(ヒロハハコヤナギ)<長谷川1996>
- ◇*P. deltoides* ナミキドロ(アメリカクロヤマナラシ)<大橋1997>
- ◇*P. deltoides* Bartr. ex Marshall ナミキドロ(ヒロハハコヤナギ)<長谷川2001>
- ◇*P. deltoides* Bartr. ex Marshall (*P. virginiana* Fougroux) ナミキドロ(ヒロハハコヤナギ)<長谷川2003>
- ◇*P. deltoides* ヒロハハコヤナギ<横井2003>
- ◇*P. deltoides* アメリカクロヤマナラシ<トニー・他2005>
- ◇*P. deltoides* ナミキドロ(アメリカクロヤマナラシ、ヒロハヤマナラシ)<コリン・他2007>
- ◇*P. deltoides* Marsh. アメリカクロヤマナラシ<濱谷2007>
- ◇*P. deltoides* ナミキドロ<野田坂2011>
- ◇*P. deltoides* Bartr. ex Marshall ヒロハヤマナラシ(アメリカクロヤマナラシ、ナミキドロ)<YList2012>

◇学名 : *P. deltoides* Bartr. ex Marshall ◇和名 : ナミキドロ(ヒロハハコヤナギ) (筆者使用)

4-2. *P. nigra* 掲載文献一覧

- ◇*P. nigra* L. アメリカヤマナラシ(クロヤマナラシ、セイヨウヤマナラシ)<上原1959>
- ◇*P. nigra* ヨーロッパクロポプラ<森田1973>
- ◇*P. nigra* L. クロヤマナラシ(ヨウシュヤマナラシ)<杉本1978>
- ◇*P. nigra* L. ヨーロッパクロヤマナラシ(アメリカヤマナラシ)<小林1980>
- ◇*P. nigra* L. アメリカヤマナラシ(クロヤマナラシ)<北村文雄・他1982>
- ◇*P. nigra* L. アメリカヤマナラシ(クロヤマナラシ)<松崎・他1983>
- ◇*P. nigra* L. クロヤマナラシ(セイヨウヤマナラシ)<林・他1985>
- ◇*P. nigra* L. クロポプラ(ヨーロッパクロポプラ)<北村四郎・齋藤1989>
- ◇*P. nigra* L. ヨーロッパクロヤマナラシ<湯浅1995>
- ◇*P. nigra* ヨーロッパクロヤマナラシ<大橋1997>
- ◇*P. nigra* L. セイヨウハコヤナギ(ポプラ)<奥原・他1997>
- ◇*P. nigra* L. クロポプラ(ヨーロッパクロポプラ)<齋藤2001>
- ◇*P. nigra* L. クロヤマナラシ<長谷川2001, 2003>
- ◇*P. nigra* クロポプラ<横井2003>
- ◇*P. nigra* L. クロヤマナラシ(セイヨウヤマナラシ、ヨーロッパクロヤマナラシ)<邑田2004>
- ◇*P. nigra* クロヤマナラシ<トニー・他2005>
- ◇*P. nigra* ヨーロッパクロヤマナラシ<コリン・他2007>
- ◇*P. nigra* L. ヨーロッパクロヤマナラシ<濱谷2007>
- ◇*P. nigra* クロポプラ(ヨーロッパクロヤマナラシ)<大場2009>
- ◇*P. nigra* ヨーロッパクロポプラ<矢口2009>
- ◇*P. nigra* L. ヨーロッパクロヤマナラシ<野田坂2011>
- ◇*P. nigra* L. ヨーロッパクロヤマナラシ<YList2012>

◇学名 : *P. nigra* L. クロヤマナラシ(ヨーロッパクロヤマナラシ) (筆者使用)

〔ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する〕 (p9)4-3. *P. tremuloides* 掲載文献一覧

- ◇*P. tremuloides* アメリカヤマナラシ<大橋1997>
- ◇*P. tremuloides* アメリカクロポプラ<斎藤2001>
- ◇*P. tremuloides* アメリカヤマナラシ<トニー・他2005>
- ◇*P. tremuloides* アメリカヤマナラシ<コリン・他2007>
- ◇*P. tremuloides* Michx. アメリカヤマナラシ<YList2012>

◇学名：*P. tremuloides* Michx. ◇和名：アメリカヤマナラシ（筆者使用）

《おわりに》

筆者は東京都の南側を流れる一級河川多摩川の中～下流域で、ヤナギ科植物の個体調査を2009年から2011年にかけて両岸全域で行い、外来のポプラ属が3ヶ所で生育しているのを確認していた。ヤナギ科の植物は花の時期と葉の時期が異なるため年間を通しての調査を要し、時間も取られることから生育のほとんどを占めるヤナギ属を調べ終えてからポプラ属に取り組もうと考え、生育の少なさからつついポプラ属を後回しにしてしまい、2012年に種類調査を始めた。ところがポプラ属の樹種は著しく樹高があるため花が殆ど採集できないことなどに直面し、更に外来のポプラ類は葉が皆同じよう明確な区別点が解らず、文献情報からも種の区別ははなはだ困難であった。調べた限りでは植物公園の名札は必ずしも正確なものではなく、公共の植物園などでも外来ポプラの明確な種がウラジロハコヤナギ以外はみられなかったことから、難しい分類群であることが解ってきた。それに加えて諸文献での学名・和名の混乱は著しく、このような経緯から今回この報告をまとめることにした。

東京大学大学院農学生命科学研究科 附属田無演習林では、改良ポプラの品種保存園などのご案内をいただきました。東京近郊の樹種の生育場所の情報などは、多くのWeb情報により知ることが出来ました。また廣野郁夫氏(HP:木のメモ帳)はポプラ類の混乱について大変詳細に調査されており、本報告作成において大変有効な情報が得ることができました。ここに皆様方に御礼申し上げます。

以上

【ヤナギ科 外来ポプラ類 *Populus* の和名・学名の混乱を検証する】 (p10)

《参考資料》(記載された時代を明確にするため、年度順とする)

- 山崎慶一 1956. 期待されるイタリア・ポプラの輸入. 科学朝日16(5), pp. 104-105. 朝日新聞社.
 久内清孝 1957. カロリナポプラ. 植物研究雑誌 32(2):59.
 上原敬二 1959. 樹木大図説1, 1300pp. 有明書房.
 グリーン・エージ編集室 1961. 改良ポプラ 普及の新段階. グリーン・エージ11(6), pp. 20-29.
 森林資源総合対策協議会.
 貴島恒夫・他 1962. 原色木材大図鑑. 204pp. 保育社.
 朝日新聞社編 1968. イタリアポプラ 北方植物園, pp. 35-37. 朝日新聞社.
 森田健次郎 1973. ポプラの造林. 光珠内季報 15:2-15. 北海道立林業試験場.
 杉本順一 1978. 改訂増補 新日本樹木総検索誌, 577pp. 井上書店.
 北村四郎 1979. ヤナギ科. 改訂15刷 原色日本植物図鑑 木本編II, pp. 303-340. 保育社.
 小林義雄 1980. ポプラ. *ENCYCLOPEDIA JAPONICA* 20, pp. 507-508. 小学館.
 北村文雄・他 1982. 都市樹木大図鑑, 545pp. 講談社.
 大井次三郎著 北川政夫改訂 1983. 新日本植物誌 顕花篇, 1716pp. 至文堂.
 松崎直枝・横井正人・中島武美 1983. 街路樹, *Populus*属ハコヤナギ属. 最新園芸大事典
 5:pp. 1-39, 9:pp. 173-174, p. 281. 誠文堂新光社.
 林弥栄・他 1985. 原色樹木大図鑑, 878pp. 北隆館.
 木村有香 1989. ヤナギ科. 日本の野生植物 木本I, pp. 31-51. 平凡社.
 北村四郎・斎藤新一郎 1989. ポプルス属. 園芸植物大辞典4, pp. 435-437. 小学館.
 沼田眞監修 1990. 日本山野草・樹木生態図鑑, 664pp. 全国農村教育協会.
 長谷川義人 1991. ヤナギ科. 樹木大図鑑, pp. 34-44. 北隆館.
 吉山 寛・他 1992. 落葉図鑑, 372pp. 文一総合出版.
 湯浅浩史 1995. ポプラ. 日本大百科全書21, pp. 623-624. 小学館.
 長谷川義人 1996. ヤナギ科ヤマナラシ亜科ヤマナラシ属の分類. *FLORA KANAGAWA* 43:468-469.
 神奈川県植物誌調査会.
 家永善文・他 1996. 新訂 図解 植物観察辞典, 818pp. 地人書館.
 牧野富太郎 1997. 原色牧野植物大図鑑 離弁花・単子葉植物編, 926pp. 北隆館.
 大橋広好 1997. ポプラ. 朝日百科植物の世界6巻, pp. 251-253. 朝日新聞社.
 奥原弘人・松田行雄 1997. ヤナギ科. 長野県植物誌1997, pp. 532-546. 信濃毎日新聞社.
 長谷川義人 1999. 訂正と追加 ポプラの学名. *FLORA KANAGAWA* 48:548. 神奈川県植物誌調査会.
 長谷川義人 2001. ヤナギ科. 神奈川県植物誌2001, pp. 528-545. 神奈川県立生命の星・地球博物館.
 塚本洋太郎監訳(英国王立園芸協会監修) 2001. 新・花と植物百科, 767pp. 同朋舎.
 斎藤新一郎 2001. ヤナギ類 その見分け方と使い方, 144pp. 北海道治山協会.
 北村文雄・他 2001. NHK趣味の園芸 樹木図鑑, 518pp. 日本放送出版協会.
 長谷川義人 2003. ヤナギ科. 千葉県自然誌 別編4 千葉県植物誌, pp. 86-99, 102-105. 千葉県.
 横井正人監訳(英国王立園芸協会監修) 2003. A-Z園芸植物百科事典, 1080pp. 誠文堂新光社.
 邑田仁監修 2004. 新訂 原色樹木大図鑑, 894pp. 北隆館.
 生原喜久雄 2005. 東芝 ぬれきてる「シリーズ自然を読む 樹木の個性を知る、生活を知る」ポプラ.
<http://elekitel.jp/elekitel/index.htm> (2012アクセス)
 トニー・ロード他 2005. *POPULUS*. フローラ, 1584pp. 産調出版.
 濱谷稔夫 2007. ポプラ. 世界大百科事典26, pp. 378-379. 平凡社.
 コリン・リズデイル他 2007. 知の遊びコレクション 樹木, 359pp. 新樹社.
 牧野富太郎著 大橋広好・邑田仁・岩槻邦男編 2008. 新牧野日本植物図鑑, 1458pp. 北隆館.
 田無演習林 2008. 改良ポプラ品種保存計画(表) 1. 東京大学大学院農学生命科学研究科附属演習林.
 大場秀章 2009. 植物分類表, 515pp. アボック社.
 矢口行雄監修 2009. 樹木医が教える緑化樹木辞典, 336pp. 誠文堂新光社.
 野田坂伸也 2011. 木を選ぶ 野田坂 造園樹木辞典, 409pp. アボック社.
 佐藤孝夫 2011. 増補新版 北海道樹木図鑑, 335pp. 亜璃西社.
 米倉浩司・梶田忠 2003-. *BG Plants* 和名?学名インデックス(YList),
http://bean.bio.chiba-u.jp/bgplants/ylist_main.html. (2012アクセス)
 廣野郁夫 2012. 木のメモ帳, 樹の散歩道126 わかりにくいポプラの素性 目にするポプラ類は何と呼べば
 よいのか. http://www.geocities.jp/kinomemocho/sanpo_poplar.html (2012アクセス)